

令和4年度

乙訓圏域障がい者自立支援協議会報告書（案）

令和5年4月

乙訓圏域障がい者自立支援協議会

目 次

1 運営報告	1
2 「医療的ケア」委員会活動報告	7
3 人材確保・育成部会活動報告	13
4 就労支援部会活動報告	17
5 各プロジェクト報告	
相談支援プロジェクト活動報告	21
喀痰吸引等研修プロジェクト活動報告	25
精神障がい者地域生活支援プロジェクト活動報告	29
児童発達支援プロジェクト活動報告	33

運営報告（案）

1 はじめに

乙訓圏域障がい者自立支援協議会は、障害者自立支援法施行規則第 65 条の 10 の規定により、福祉や医療などの生活に必要なサービス基盤や環境が共有されている乙訓圏域の特性から、平成 19 年度に乙訓地域の障がい者（児）及び難病患者等の自立と社会参加を支援するため、向日市・長岡京市・大山崎町の 2 市 1 町に共同設置されました。

協議会は、障がい者や保護者、関係機関等に、障害福祉サービス等に関する聞き取り調査やアンケートを実施し、サービス利用の実態に関する意見・要望等の把握に努め、障がい者等の生活の質の向上のために活動してきました。

これからは、この成果を活かして、必要なサービスの整備をはじめ、多くの課題の具体的な解決に向けての活動が必要とされています。

協議会は、それぞれの部会等で、活動方針や達成目標を前提に、様々な立場からの意見を出し合い、課題をできるだけ明らかにしながら、必要な施策について具体的な協議を行い、行政への提案も行っています。

2 組織体制

(1) 運営委員会の開催

運営委員会は、行政機関と相談支援の委託を受けた 10 事業所で定例会を開催し、協議すべき課題や支援策の検討、部会の進め方などについて協議しました。

京都府立向日が丘支援学校の卒業後の進路先である生活介護事業所に定員の空きがないという課題について、運営委員会で協議し、行政・基幹相談支援・委託相談支援・支援学校とで今後の協働の在り方について、別途話し合いの場を持ちました。関係機関の役割を明確にし、今後も具体的な数値を含めた現状を共有し進めていくこととしました。

また、京都府立向日が丘支援学校の仮移転について、その概要を学校長から説明を受ける機会を持ちました。

(2) 入浴ワーキングチーム

令和 4 年度は、前年度介護保険事業所に対して実施したアンケート調査の結果を受けて、入浴の機会を確保するためのワーキングチームを運営委員会の中に置くこととしました。今ある資源を活かしサービス創出に向けて検討をした結果、入浴設備の開放に協力できることがあればしたいと回答のあった法人に連絡を取り、基準該当生活介護事業について説明の機会を持ちました。各法人での検討結果については、令和 5 年 4 月中旬ごろまでに回答をいただくことで進めており、令和 5 年度も引き続き協議をしていくこととなります。

(3) 全体会・部会・プロジェクトの設置

全体会では、令和3年度事業のまとめの報告について確認し、引き続き令和4年度の取組について協議・確認しました。

令和4年度は、1委員会（「医療的ケア」委員会）、2部会（人材確保・育成部会、就労支援部会）を設置しました。また、4つのプロジェクト（相談支援プロジェクト、喀痰吸引等研修プロジェクト、精神障がい者地域生活支援プロジェクト、児童発達支援プロジェクト）を設置し、様々な協議・活動を行ってきました。

各部会等の協議の到達点と成果、課題については、各委員に意見を求めて作成されたそれぞれ報告書の中で後述しております。

（4）事務局としての取組

令和元年度に初めて開催した乙訓地域や近隣地の障がい者福祉事業所を紹介する「福祉事業所説明会」は、3年ぶりに乙訓保健所で開催しました。新型コロナウイルス感染症防止のため、部屋を3つに分け、向日が丘支援学校の保護者を含め44名の参加がありました。今後は、2～3年毎の開催とし、支援校PTAにも協力団体に入っていただき、乙訓の相談支援事業所だけでなく通所事業所にも周知をしていきます。

また、事務局主催で社会福祉法人北摂杉の子会のグループホームなさはらもとまちの見学会を計画しました。当日は運営委員を中心に9名の参加があり、施設見学だけでなく、強度行動障がい者の方への支援の統一化や人権意識を高め地域力を育てる仕組み、入所・強度行動障がい者のグループホーム・高齢者のグループホーム・共生型の生活介護の循環型への今後に向けての取組など多くを学ぶことができました。

3 令和5年度の課題

令和4年度、向日が丘支援学校から、医療的ケアを含む肢体障がいの生徒の進路先に定員の空きがない状況について報告がありました。地域資源不足については地域課題と捉え、引き続き運営委員会で協議していく必要があります。

また、向日が丘支援学校の仮移転に伴って予想される課題については、適宜取り上げていくこととします。

なお、「向日が丘共生型地域づくり構想」については、令和4年度に事業者が選定されました。今後はその中身について、運営委員会で共有していきます。

4 情報の公開

協議会の活動内容は広く住民に理解され共感されることが必要です。今年度から、プロジェクトの内容を記録として公開しました。また、部会等で取り組んだ講演等については、昨年度同様 YouTube の限定公開で配信しています。これからも可能な限り各部会等の情報の公開をしていきます。

また、協議会の情報公開は、ホームページの活用を基本に行っていきます。

令和4年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会 委員

分野・団体	団体・機関名	所属名	役職	委員	
相談支援事業所	乙訓福祉施設事務組合	乙訓障がい者基幹相談支援センター	相談員	中坊智子	
	(福)長岡京市社会福祉協議会	長岡京市障がい者地域生活支援センター(キャンパス)	グループ長	中谷大介	
	(福)向陵会	乙訓ひまわり園地域連携室	室長	井上 大	
	(財)長岡記念財団	相談支援事業所・地域活動支援センター(アンソブル)	所長	石田早苗	
	(福)向日市社会福祉協議会	向日市社協障がい者地域生活支援センター	事務局次長兼センター長	落合 鋼	
	NPO法人こらぼねっと京都	こらぼねっと相談支援センター	理事長	伊藤美恵	
	(財)長岡記念財団	しょうがい者就業・生活支援センター(アイリス)	主任就業支援員	青戸享子	
	乙訓福祉施設事務組合	乙訓ポニーの学校	主任	大塚まり子	
	(福)大山崎町社会福祉協議会	乙訓ポニーの学校	事務局長	今西泰彦	
障がい福祉サービス事業所関係	乙訓障害者支援事業所連絡協議会	(福)向陵会	第2乙訓ひまわり園	施設長	森井詳太
	乙訓圏域児童通所支援事業所連絡会	NPO法人 長岡京障がい福祉療育会	たけのこ	理事長	山崎裕や
	居宅支援事業者	(福)向日市社会福祉協議会	向日市社協ホームヘルプセンター	センター長	中澤明美
		(福)長岡京市社会福祉協議会	地域福祉センター(まわりまね) サービス支援グループ		長谷川佐代子
		(福)大山崎町社会福祉協議会		事務局長	今西泰彦
	公設支援事業者	乙訓福祉施設事務組合	乙訓ポニーの学校	施設長	小松悦子
		乙訓福祉施設事務組合	乙訓若竹苑	施設長	伊藤啓子
施設入所支援事業者	(福)乙の国福祉会	障害者支援施設晨光苑	施設長	梅垣 剛	
第3号登録研修機関	(福)乙訓福祉会	乙訓の里	生活支援員	三宅州人	
医療関係団体		(社)乙訓医師会		障がい者担当理事	池田広記
		京都府乙訓歯科医師会		口聴サポートセンター(部員)	安藤純夫
		京都府歯科衛生士会			岩崎香代
		(財)療道協会 西山病院	医療福祉相談室	精神保健福祉士	山本珠由
		(財)長岡記念財団 長岡病院	医療社会事業部	課長	今堀幸弘
	(福)恩賜財団京都済生会病院	福祉相談室	室長	南本宜子	
乙訓訪問看護ステーション連絡会		訪問看護ステーションやすらぎの家	看護師	小泉 萌	
教育・雇用・企業	京都府立向日が丘支援学校		校長	平岡克也	
	京都府乙訓教育局	学校教育担当	指導主事	中村祐馬	
	京都七条公共職業安定所	京都障害者職業相談室	室長	岩間邦男	
	乙訓地域商工会広域連携協議会	乙訓地域商工会広域連携協議会事務局	長岡京市商工会 総括主事	小林康夫	
	(社)乙訓青年会議所	組織デザイン委員会	副委員長	村田朋紀	
障がい者関係団体	当事者団体	京都府身体障害者団体連合会乙訓ブロック	長岡京市身体障がい者団体連合会	会長	三好俊昭
		(社)京家連 乙訓やよい会		副会長	西村くみ子
		乙訓の障害者福祉を進める連絡会	乙訓障害児父母の会		河合祥子
行政	京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	福祉課	課長	辻 知也	
	乙訓福祉施設事務組合		事務局長	川本 進	
	向日市	市民サービス部	部長	山田栄次	
	向日市	市民サービス部障がい者支援課	課長	岡本淳司	
	長岡京市	健康福祉部	部長	能勢 泰人	
	長岡京市	健康福祉部障がい福祉課	課長	厚地基子	
	大山崎町	副町長(健康福祉部長事務取扱)	副町長(部長)	矢野雅之	
	大山崎町	健康福祉部福祉課	課長	向井宏樹	

運営委員	相談支援事業所	乙訓福祉施設事務組合	乙訓障がい者基幹相談支援センター	相談員	中坊智子
		(福)長岡京市社会福祉協議会	長岡京市障がい者地域生活支援センター(キャンパス)	グループ長	中谷大介
		(福)向陵会	乙訓ひまわり園地域連携室	室長	井上 大
		(財)長岡記念財団	相談支援事業所・地域活動支援センター(アンソブル)	所長	石田早苗
		(福)向日市社会福祉協議会	向日市社協障がい者地域生活支援センター	事務局次長兼センター長	落合 鋼
		(福)向日市社会福祉協議会	向日市社協障がい者地域生活支援センター	副センター長	吉川昭子
		NPO法人こらぼねっと京都	こらぼねっと相談支援センター	理事長	伊藤美恵
		(財)長岡記念財団	しょうがい者就業・生活支援センター(アイリス)	主任就業支援員	青戸享子
		乙訓福祉施設事務組合	乙訓ポニーの学校	主任	大塚まり子
	(福)大山崎町社会福祉協議会	乙訓ポニーの学校	事務局長	今西泰彦	
	乙訓福祉施設事務組合	乙訓若竹苑	主幹	上田佳子	
	行政	京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	福祉課	課長	辻 知也
		京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	福祉課	課長補佐兼係長	西條 毅
		乙訓福祉施設事務組合	総務課	行財政係係長	服部香葉
		向日市	市民サービス部障がい者支援課	係長	宮川圭美
		向日市	市民サービス部障がい者支援課	担当係長	山田直人
		長岡京市	健康福祉部障がい福祉課	係長	山中あゆみ
大山崎町		健康福祉部福祉課	係長	瀬川陽二郎	

令和4年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会 委員会・部会・準備会・プロジェクト委員 一覧

「医療的ケア」委員会 委員

	団体・機関名	所属名	役職	委員
1	(福)長岡京市社会福祉協議会	長岡京市障がい者地域生活支援センター「キャンパス」	相談支援専門員	堀内カズ代
2	(福)向陵会	第2乙訓ひまわり園	施設長	森井詳太
3	(福)向陵会	乙訓ひまわり園地域生活支援センター	主任	高津大輔
4	(福)向日市社会福祉協議会	向日市社協障がい者地域生活支援センター	副センター長	吉川昭子
5	乙訓福祉施設事務組合	乙訓ポニーの学校	主任	大塚まり子
6	乙訓障害者支援事業所連絡協議会	NPO法人てくてく	理事長	尾瀬順次
7	(福)乙訓福祉会	乙訓の里	生活支援員	三宅州人
8	(社)乙訓医師会		理事	池田広記
9	京都府乙訓歯科医師会			安藤純夫
10	京都府歯科衛生士会	乙訓支部		岩崎香代
11	(福)恩賜財団京都済生会病院	福祉相談室	室長	南本宜子
12	乙訓訪問看護ステーション連絡会	訪問看護ステーションやすらぎの家	看護師	小泉 萌
13	京都府立向日が丘支援学校	中学部	総括主事兼中学部主事	中山彩子
14	乙訓の障害者福祉を進める連絡会	当事者		大藪光俊
15	乙訓の障害者福祉を進める連絡会	乙訓手をつなぐ親の会		土岡ひとみ
16	乙訓の障害者福祉を進める連絡会	ひまわり会		古田真美
17	乙訓の障害者福祉を進める連絡会	京都府立向日が丘支援学校PTA 医療的ケア部	副部会長	松下幸代
18	京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	保健課	課長	西邑公子
19	京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	福祉課	課長補佐兼係長	西條 毅
20	向日市	市民サービス部障がい者支援課	主任保健師	山本菜摘
21	長岡京市	健康福祉部障がい福祉課	主幹兼保健師長	村田浩子
22	大山崎町	健康福祉部福祉課	係長	瀬川陽二郎

人材確保・育成部会 委員

	団体・機関名	所属名	役職	委員
1	乙訓福祉施設事務組合	乙訓障がい者基幹相談支援センター	相談員	中坊智子
2	(福)向日市社会福祉協議会	向日市社協障がい者地域生活支援センター	事務局次長兼センター長	落合 鋼
3	NPO法人こらぼねっと京都	こらぼねっと相談支援センター	センター長	中西美穂
4	(福)大山崎町社会福祉協議会	事業課	事務局次長	今西泰彦
5	乙訓障害者支援事業所連絡協議会	(福)向陵会 第2乙訓ひまわり園	施設長	森井詳太
6	乙訓障害者支援事業所連絡協議会	(福)あらぐさ福祉会 障害福祉センターあらぐさ	センター長	浜野亜希子
7	(福)乙の国福祉会	障害者支援施設晨光苑	施設長	梅垣 剛
8	(福)乙訓福祉会	乙訓の里	所長	中山裕介
9	乙訓地域商工会広域連携協議会	長岡京市商工会	総括主事	小林康夫
10	京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	福祉課	課長	辻 知也
11	向日市	市民サービス部障がい者支援課	係長	宮川圭美
12	向日市	市民サービス部障がい者支援課	担当係長	山田直人
13	長岡京市	健康福祉部障がい福祉課	主査	石原卓弥
14	大山崎町	健康福祉部福祉課	主事	川島智徳

就労支援部会 委員

	団体・機関名	所属名	役職	委員
1	NPO法人こらぼねっと京都	就労移行支援事業所ステージ	就労支援員	小松哲也
2	(財)長岡記念財団	しょうがい者就業・生活支援センターアイリス	主任就業支援員	青戸享子
3	(財)長岡記念財団	就労支援センターカメリア	生活支援員	西山靖子
4	乙訓福祉施設事務組合	乙訓若竹苑	主幹	上田佳子
5	京都府立向日が丘支援学校	進路指導部	教諭 進路指導部長	木田 聡
6	京都府立向日が丘支援学校	進路指導部	教諭 進路指導部員	柚木隼一美
7	京都七条公共職業安定所	京都障害者職業相談室	室長	岩間邦男
8	公益社団法人乙訓青年会議所	組織デザイン委員会	副委員長	村田朋紀
9	(公社)京家連 乙訓やよい会		副会長	西村くみ子
10	乙訓の障害者福祉を進める連絡会	乙訓手をつなぐ親の会		日野真喜
11	京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	福祉課	課長	辻 知也
12	向日市	市民サービス部障がい者支援課	担当係長	山田直人
13	向日市	市民サービス部障がい者支援課	主査	田中明日美
14	向日市	市民サービス部障がい者支援課	主事	倉松千寿
15	長岡京市	健康福祉部障がい福祉課	主事	塩谷耕平
16	長岡京市	健康福祉部障がい福祉課	主査	石原卓弥
17	大山崎町	健康福祉部福祉課	主任	内藤 恵

相談支援プロジェクト 委員

	団体・機関名	所属名	役職	委員
1	乙訓福祉施設事務組合	乙訓障がい者基幹相談支援センター	課長	中川仁夫
2	乙訓福祉施設事務組合	乙訓障がい者基幹相談支援センター	相談員	中坊智子
3	(福)長岡京市社会福祉協議会	長岡京市障がい者地域生活支援センター「キャンパス」	主任	岩橋丈人
4	(福)向陵会	乙訓ひまわり園地域連携室	室長	井上 大
5	(財)長岡記念財団	相談支援事業所・地域活動支援センターアンサンブル	所長	石田早苗
6	(福)向日市社会福祉協議会	向日市社協障がい者地域生活支援センター	事務局次長兼センター長	落合 鋼
7	NPO法人こらぼねっと京都	こらぼねっと相談支援センター	理事長	伊藤美恵
8	乙訓福祉施設事務組合	乙訓ポニーの学校	係長	松尾理代
9	(福)大山崎町社会福祉協議会	相談支援事業所	相談員	上田祥子
10	乙訓福祉施設事務組合	乙訓若竹苑	主任	小柳裕一
11	乙訓の障害者福祉を進める連絡会	乙訓障害児父母の会		河合祥子
12	京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	福祉課	課長補佐兼係長	西條 毅
13	向日市	市民サービス部障がい者支援課	係長	宮川圭美
14	向日市	市民サービス部障がい者支援課	担当係長	山田直人
15	長岡京市	健康福祉部障がい福祉課	係長	山中あゆみ
16	長岡京市	健康福祉部障がい福祉課	主事	歌原成哉
17	大山崎町	健康福祉部福祉課	係長	瀬川陽二郎

喀痰吸引等研修プロジェクト 委員

	団体・機関名	所属名	役職	委員
1	(福)長岡京市社会福祉協議会	長岡京市障がい者地域生活支援センター「キャンパス」	相談支援専門員	堀内カズ代
2	(福)向陵会	乙訓ひまわり園地域生活支援センター	主任	高津大輔
3	乙訓福祉施設事務組合	乙訓ポニーの学校	主任	大塚まり子
4	乙訓障害者支援事業所連絡協議会	NPO法人てくてく	理事長	尾瀬順次
5	(福)乙訓福祉会	乙訓の里	生活支援員	三宅州人
6	(社)乙訓医師会		理事	池田広記
7	乙訓訪問看護ステーション連絡会	訪問看護ステーションやすらぎの家	看護師	小泉 萌
8	大山崎町	健康福祉部福祉課	係長	瀬川陽二郎
	オブザーバー			
	京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	福祉課	課長補佐兼係長	西條 毅

精神障がい者地域生活支援プロジェクト 委員

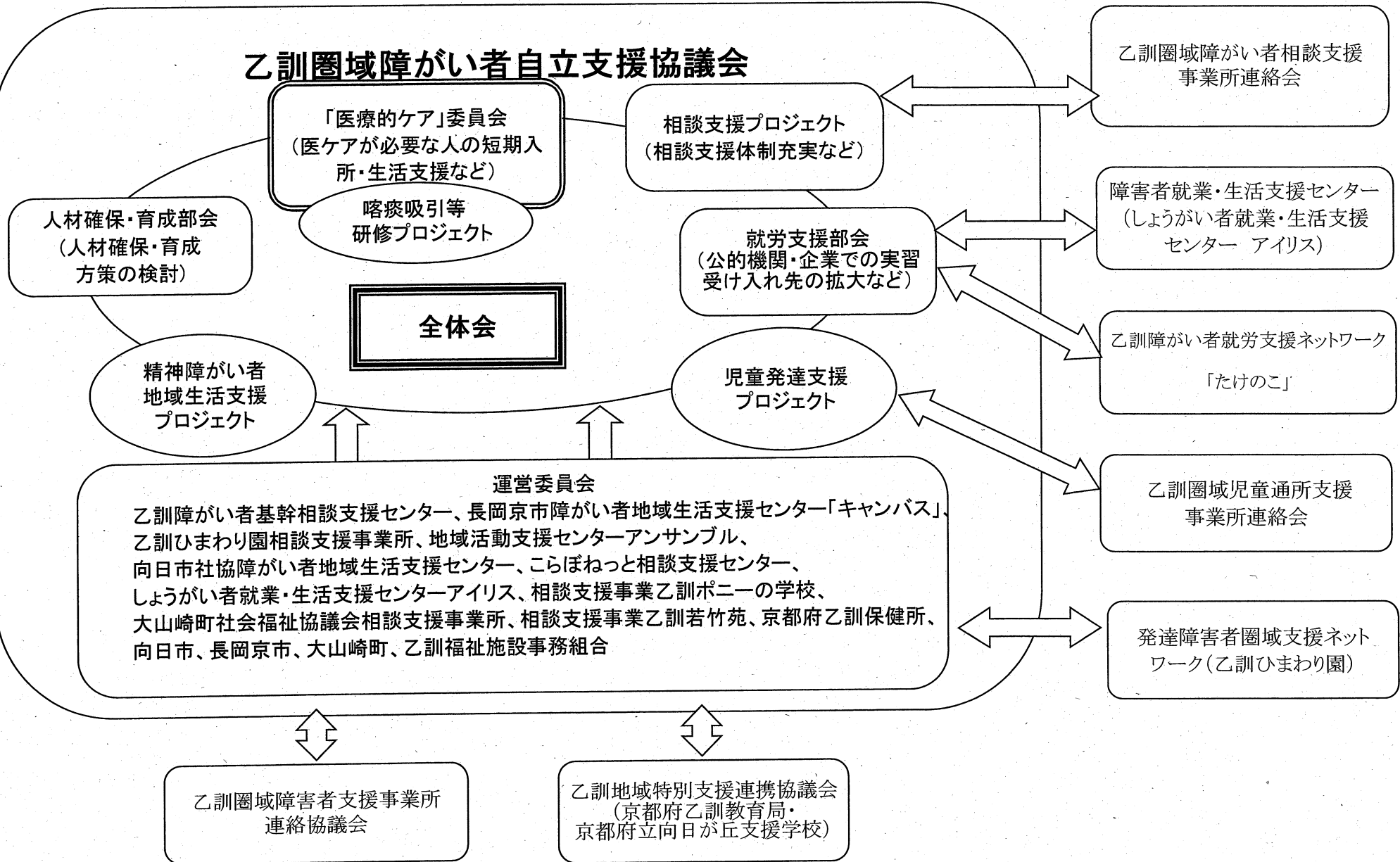
	団体・機関名	所属名	役職	委員
1	乙訓福祉施設事務組合	乙訓障がい者基幹相談支援センター	相談員	中坊智子
2	(財)長岡記念財団	相談支援事業所・地域活動支援センターアンサンブル	所長	石田早苗
3	乙訓障害者支援事業所連絡協議会	NPO法人乙訓やよい福祉会 グループホームかんな	サービス管理責任者	安西桂子
4	乙訓障害者支援事業所連絡協議会	NPO法人乙訓障害者事業協会 乙訓もも	所長	藤田晃久
5	(財)長岡記念財団長岡病院	医療社会事業部	課長	今堀幸弘
6	(財)療道協会 西山病院	医療福祉相談室	精神保健福祉士	山本珠由
7	(公社)京家連 乙訓やよい会		副会長	近藤慶子
8	(公社)京家連 乙訓やよい会		幹事	谷地喜久子
9	京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	福祉課	副主査	光井 貢
10	向日市	市民サービス部障がい者支援課	担当係長	山田直人
11	向日市	市民サービス部障がい者支援課	主査	朝倉敬人
12	向日市	市民サービス部障がい者支援課	主事	倉松千寿
13	長岡京市	健康福祉部障がい福祉課	総括主査	高瀬真依
14	大山崎町	健康福祉部福祉課	主任	内藤 恵

児童発達支援プロジェクト 委員

	団体・機関名	所属名	役職	委員
1	NPO法人こらぼねっと京都	こらぼねっと相談支援センター	理事長	伊藤美恵
2	乙訓福祉施設事務組合	乙訓ポニーの学校	主任	中川美穂
3	(福)大山崎町社会福祉協議会	事業課	事務局次長	今西泰彦
4	乙訓圏域児童通所支援事業所連絡会	放課後等デイサービス たけのこ	理事長	山崎裕市
5	京都府立向日が丘支援学校	小学部	総括主事	田中裕美
6	乙訓の障害者福祉を進める連絡会	乙訓手をつなぐ親の会		上田裕子
7	京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	福祉課	課長	辻 知也
8	向日市	市民サービス部障がい者支援課	主任保健師	山本菜摘
9	向日市	市民サービス部健康推進課	保健師	金羽桃佳
10	長岡京市	健康福祉部障がい福祉課	主幹兼保健師長	村田浩子
11	長岡京市	健康福祉部障がい福祉課	主査	中村友紀
12	長岡京市	健康福祉部健康づくり推進課	保健師長	東絵里子
13	大山崎町	健康福祉部福祉課	主事	川島智徳
14	大山崎町	健康福祉部健康課	課長補佐	山本知美

令和4年度乙訓圏域障がい者自立支援協議会と他の機関等関係図

乙訓圏域障がい者自立支援協議会



令和4年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会

「医療的ケア」委員会 活動報告（案）

1 設置の目的、役割等

「医療的ケア」委員会は、日常的に医療的ケアが必要な障がいのある人が安心して地域で生活していけるよう、関係機関が連携して支援体制を構築・確保するために必要なことについて、具体化に向けた協議を進めることを目的、役割としています。

2 昨年度までの経過

平成23年度から自立支援協議会の常設委員会として設置され、「介護職員等による喀痰吸引等研修」の実施や「入院時コミュニケーション支援」の制度化を進めてきました。また、「医療的ケアが必要な人の短期入所施設の拡充」、「医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者のフォローアップ交流会」の開催、「介護職員等による喀痰吸引等研修」の周知、「医療的ケアに関わることがない方への啓発」についても協議してきました。

3 今年度の取組状況

第1回 令和4年6月16日（木）

- 1) 委員長、副委員長の選出
- 2) 今年度の取組の確認

医療型短期入所の進捗状況の報告

医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者のフォローアップ交流会

医療的ケアの周知活動

生活をするうえで必要な支援と課題

- 3) 情報共有

京都府医療的ケア児支援強化事業費

長岡京市重度障がい者等就労支援特別事業

特別支援学校医療的ケア安心サポート事業

第2回 令和4年7月28日（木）〈オンライン開催〉

- 1) 人材確保
- 2) 医療的ケアの周知活動

- 3) 医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者のフォローアップ交流会
- 4) 医療型短期入所の進捗状況
- 5) 個別会
- 6) 生活を支えるために必要なこと
- 7) 情報共有 長岡京市訪問生活介護

第3回 令和4年10月13日(木)

- 1) 報告
 - 3号研修周知(人材確保)
 - 医療的ケアの周知活動
 - 医療型短期入所の進捗状況
 - 個別会
 - 医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者のフォローアップ交流会
- 2) 医療的ケアが必要な方の生活を支えるために必要なこと
 - 自宅以外の訪問看護
 - 災害時の個別避難計画
 - 口腔ケアに係る乙訓での仕組み
 - 支援校への送迎
 - 支援学校跡地の短期入所
- 3) 医療的ケアが必要な方の生活について課題に思うこと

第4回 令和4年12月15日(木)

- 1) 報告
 - 3号研修周知(人材確保)
 - 医療型短期入所の進捗状況
 - 医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者のフォローアップ交流会
 - 個別会
- 2) 医療的ケアが必要な方の生活を支えるために必要なこと
- 3) 喀痰吸引等研修 実施報告

第5回 令和5年2月13日(月)

- 1) 医療型短期入所の進捗状況の報告
- 2) 令和4年度 第2回医療的ケア児コーディネーター養成研修修了者のフォローアップ研修について
- 3) 地域療育等支援事業について
- 4) 今年度報告書(案)

5) その他

・民生児童委員の研修まとめ

医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者フォローアップ交流会

第1回) 令和4年11月24日(木) 「就学前のケース」を通して

第2回) 令和5年2月17日(金) 「学齢期のケース」を通して

個別会 第1回) 令和4年7月1日(金)

第2回) 令和4年8月15日(月)

第3回) 令和4年10月4日(火)

4 今年度の活動

(1) 人材育成について

医療的ケアを行うことができる人材の育成のために、喀痰吸引等研修を登録研修機関である乙訓福祉会と連携し、研修委員や研修講師の派遣等の形で協力して実施しました。また、喀痰吸引等研修や医療的ケア児支援法を紹介するチラシを作成し、まずは子育て支援の担当課に周知を行ったところ、喀痰吸引等研修会に9名の見学者がありました。

(2) 個別ケースの課題の検討について

医療的ケアの必要があることで保育所に入所できないケースについて、委員会設置要綱に基づき「個別会」を開催しました。関係者と課題を整理し、行政に対する報告書として提案をまとめました。

<資料1>

また、個別ケースに対する制度的な手立てとして、向日市に続いて長岡京市でも開始された「訪問生活介護」や、重度障がい者の就労を後押しする「長岡京市重度障がい者就労支援特別事業」について説明がありました。

(3) 医療型短期入所の利用に向けたモデルケースを通じた準備について

介護老人保健施設「春風」で、医療型短期入所が開所し、モデルケースとしての利用が開始しました。モデルケースの利用を通して見えてきた、利用の相談から準備に関することや手続きについての整理、障がいのある方への個別ケアの必要性などについて、行政や関係機関と話し合い、その都度「春風」と面談の機会を持ちました。

(4) 医療的ケア児・者の実際を知ってもらうための活動について

令和3年度に医療的ケア委員会から当事者の委員を講師にして「医療的ケ

アを含む重度身体障がい者の生活について」学習会を開催した内容を基に、2市1町の民生委員・児童委員人権問題啓発研修で、200名を超える方を対象に講演させていただきました。参加者へのアンケートでは、74%の方が〈よく理解できた〉26%の方が〈概ね理解できた〉、96%の方が今後の民生委員・児童委員としての活動に〈役に立つ〉という結果をいただきました。後日、講演をYouTubeで限定配信し、長岡京市の職員研修にも利用されました。

(5) 医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者のフォローアップについて

ライフステージに沿った具体的な事例を通して、支援方法の検討やそこから見えてきた地域課題についてグループディスカッションをしました。また、京都府医療的ケア児等支援センター「ことのわ」より、ご家族や支援者からの相談内容の紹介や、今後の取組について講演させていただきました。

第1回 令和4年11月24日（木）就学前のケースについて

第2回 令和5年2月17日（金）学齢期のケースについて

〈資料2〉

(6) 医療的ケア児・者の生活を支えるために必要なことについて

令和3年度に各委員から出た様々な意見や課題を整理し、現状の把握や意見交換を行いました。

京都府から障害児（者）地域療育等支援事業の見直しについて話があり、施設における口腔ケアの必要性についての確認や、事業廃止となった場合、他の方法での継続の可能性について委員会で協議しました。その内容を踏まえ、別途受託法人と利用事業所、また受託法人と府担当課との間で協議を重ねた結果、府からは『規模縮小の方向ではあるが令和5年度も事業委託を継続する』と口頭で確認が取れたと受託法人から報告を受けました。

府立特別支援学校の通学支援に係る「特別支援学校医療的ケア安心サポート事業」について、家族委員から契約やキャンセル料について使いにくいと意見があり、向日が丘支援学校と課題を共有しました。

向日が丘支援学校跡地の共生型福祉施設構想に係る短期入所について、2床では少なく、また医療的ケアが必要な方が利用できるように整備をしてほしいという意見を、医療的ケア委員会として確認しました。

5 次年度の課題と方針

(1) 人材育成について

医療的ケアを行うことができる人材の育成のために、令和5年度も喀痰吸引等研修プロジェクトと連携・協力し、研修実施に向け取り組んでいきます。

また、医療的ケアの必要があっても利用できる場所やサービス拡大に向けて、保育所、幼稚園、学校、学童、福祉事業所等の現状を把握し、3号研修の周知を行います。

(2) 医療型短期入所「春風」の利用に向けて

家族、当事者、相談支援専門員等に向けて周知を図るための方法について検討します。また、今後の利用状況については医療的ケア委員会で確認します。

(3) 医療的ケア児・者の実際を知ってもらうための活動について

「医療的ケア」を知ってもらうための啓発活動として、令和5年度は2市1町社会福祉協議会主催の市民に向けた催しに参加し、壁面での掲示や当事者と交流の場を設けるなど、実施に向け協議します。

(4) 医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者のフォローアップについて

引き続き、ライフステージごとのケースを通して、地域課題や必要な制度について意見交換を行い、医療的ケアが必要な方の支援についてネットワークを構築し、互いに学び合える交流会を実施します。また、京都府医療的ケア児等支援センター「ことのわ」と連携していきます。

(5) 医療的ケア児・者の生活を支えるために必要なことについて

令和4年度、協議を行った事や話題に上がった「京都府障害児（者）地域療育等支援事業」「特別支援学校医療的ケア安心サポート事業」「重度障がい者等就労支援特別事業」について、現状を把握し必要な事柄については協議を進めます。

また、「医療依存度の高い方の社会とのつながり」について、話し合いの場を持ちます。

<添付資料>

資料1 「個別会の報告」

乙訓地域での「医療的ケア児」保育所入所の課題について

資料2 令和4年度医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者フォローアップ交流会 報告

令和4年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会

人材確保・育成部会 活動報告（案）

1 設置の目的、役割等

障がいのある人が安心して地域で生活するためには、支援する多くの人材の確保と、質の向上のための育成が必要です。

圏域内の各サービス事業所等が安定的に人材を確保・育成するために、必要な具体策を検討することを目的、役割としています。

2 昨年度までの経過

圏域内の多くの事業所が抱える人材不足という課題は、障がいのある人が必要なサービスを利用しながら、地域で生活することへの大きな障壁になっています。この状況の中で、求職者と事業所との「つながり＝縁」をつくることを大切に考えるとともに、圏域としてできることを検討し、人材確保・育成に向けた具体的な方策を発信するため、圏域独自のチラシを作成、活用して、学校へのアプローチや就職フェア等への広報活動を行ってきました。

3 今年度の取組状況

第1回 令和4年6月23日（木）

- 1) 部会長・副部会長の選出
- 2) 令和3年度の振り返りと令和4年度の進め方
- 3) チラシの更新、インターンシップ計画
- 4) 新任職員連続講座
- 5) 人材育成に携わる職員の意見交換会

第2回 令和4年8月25日（木）

- 1) チラシの更新、インターンシップ計画
- 2) 新任職員連続講座
- 3) 人材育成に携わる職員の意見交換会
- 4) 乙訓で働きたい人の就労フェア

第3回 令和4年10月27日（木）

- 1) 見学・職場体験チラシ配布後
・進捗状況
・京都保育福祉専門学院での就職ガイダンス打ち合わせ
- 2) 新任職員連続講座のまとめ

- 3) 人材育成に携わる圏域法人職員の意見交流会
- 第4回 令和5年1月20日(金)
- 1) 人材育成に携わる圏域職員の交流会のまとめと今後
 - 2) 就職ガイダンスの報告
 - 3) 就職フェアに向けて
 - 4) 次年度について

第5回 令和5年2月20日(月)

- 1) 就職フェア
- 2) 活動報告の確認

「乙訓圏域新任職員連続講座」

令和4年9月9日(金)、16日(金)、30日(金)

<ハイブリッド開催>

「人材育成に携わる圏域法人職員の交流会」

令和4年11月18日(金)

京都保育福祉専門学院就職ガイダンス

令和5年1月12日(木)

「乙訓地域で働きたい方のための就職フェア」

令和5年2月17日(金)

4 今年度の活動

圏域に広く求職者を呼び込む取組を検討してきました。その具体的な実践方法として、求職者と事業所との「つながり＝縁」をつくる乙訓モデルの考え方に基つき、圏域の法人での見学・体験を促すチラシを更新し、活用をしました。併せて、圏域の障がい福祉分野の魅力を発信し就職の選択肢のひとつに加えてもらうためのアプローチを、後述する就職ガイダンスや就職フェアにおいて行いました。

また、圏域の法人による人材育成に携わる職員が意見交換できる機会をつくり、抱える課題を明らかにして、解決に向けた方策を協議していく取組を行い、各法人での人材育成の強化の方法について提案しました。

(1) 圏域でのインターンシップ受け入れの仕組みづくり

令和3年度作成したチラシを活用してもらいやすくなるための工夫を重ね、法人への見学・体験への周知を行いました。成果として、2名の求職者からの問合せを受け、事業所に紹介しています。

<資料1>

また、京都保育福祉専門学院における就職ガイダンスの機会が得られたので、6法人が参加し、障がい福祉サービス事業所の状況を知っていただく内容で実施しました。

＜資料2＞

(2) 圏域への転職求職者の確保に向けた連携の強化

障がい者施設への就職に興味をもつていただくために、令和4年度更新したチラシを活用して、再就職先の選択肢のひとつにしてもらうことを目的として、乙訓地域商工会が企画する「就職フェア」でチラシ配布を行いました。

(3) 圏域の法人による人材育成方法の共有

乙訓で働き続けることを意識して横のつながりを持ち、定着してもらうことを目的に、部会として「新任職員連続講座」を開催しました。令和4年度は、圏域の障がい福祉についての歴史や特色、特別支援教育や親の思いを学ぶ内容で全3回開催し、延べ73名（対面30名・Zoom43名）の参加がありました。

＜資料3＞

なお、当初予定していたオンデマンドによる配信については、映像への他者の映り込み削除等の技術的な課題から行うことが出来ませんでした。

また、人材育成に携わる職員が、業務において抱える課題等を共有できる機会として、人材育成に携わる職員の意見交流会を開催し、意見交換とともに横のつながりづくりの取組を行いました。

＜資料4＞

5 次年度の取組

(1) 圏域における人材確保のための仕組みづくり

法人での見学・体験を促す素材として作成したチラシを活用するために、事業所の求人情報と連動した形での定期的なアップデートを行うとともに、より多くの法人の参加を促し、圏域の人材確保のための見学・体験が活発化することを目指します。

これまで培ってきた法人の横のつながりを活かして、乙訓で働きたい方を、新卒、中途転職と区別することなく幅広く受け入れていくために、引き続き乙訓地域商工会と連携して、人材確保を図っていきます。

就職ガイダンスについては、乙訓障がい者基幹相談支援センターが窓口と

なって、大学・専門学校に働きかけ、今後も継続して実施していきます。

(2) 圏域の法人による人材育成方法の共有

「新任職員連続講座」が一定の成果を得られたことにより、令和5年度以降の開催については、乙訓障がい者基幹相談支援センターに事業を移行し、部会としてはそれをバックアップしていきます。

また、「人材育成に携わる圏域職員の交流会」については、引き続き、意見交換が図れる機会を提供していくとともに、抱える課題を明らかにして、解決に向けた方策を検討していきます。

<添付資料>

資料1 チラシ

資料2 就職ガイダンス実施要項とまとめ

資料3 「乙訓圏域新任職員連続講座」

資料4 「人材育成に携わる圏域法人職員の交流会」要項とまとめ

令和4年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会

就労支援部会 活動報告（案）

1 設置の目的、役割等

障がい者雇用の促進や福祉就労における工賃向上など、障がいのある方の就労に関して多くの課題があります。その課題を具体的な取組の中で整理し、解決に向けた方向性を協議するために、平成29年度に就労支援部会として発足しました。

2 昨年度までの経過

平成28年度に発足した「就労支援に関する準備会」で整理された課題や方針をもとに平成29年度に就労支援部会を立ち上げました。

平成30年度から令和元年度にかけて、庁内実習の試行、企業での障がい者雇用の状況等の聞き取りを実施しました。また「障がい者の就労支援ネットワーク」が必要性について協議した結果、乙訓就労交流会（現乙訓障がい者就労支援ネットワーク「たけのこ」（以下、「たけのこ」と表記））が立ち上がりました。さらに、就労継続支援事業所に工賃向上への取組等について聞き取りを行い、報告にまとめました。

令和2年度は、就労継続支援事業所における就労支援の課題を探るため、一般就労の取組に関する聞き取り調査を行いました。また、庁内実習は実習者の募集を就労支援事業所だけでなく相談支援事業所に広げたこともあり、希望者は増加しました。さらに「庁内実習実施要領」を作成、適宜更新をしています。また、先進的な取組を行っている施設へ視察に行きました。

令和3年度は、令和2年度に実施した聞き取り調査の結果を協力していただいた事業所へ報告しました。乙訓圏域障がい者支援事業所連絡協議会（以下、「乙障協」と表記）へ集計結果と報告の際に上がった課題を情報提供し、「たけのこ」との連携を依頼しました。庁内実習は、試行から5年間の実績をまとめることとしました。

3 今年度の取組状況

第1回 令和4年6月17日（金）

- 1) 部会長、副部会長の選出
- 2) 昨年度の振り返りと今年度の進め方
- 3) 今年度庁内実習の実施
- 4) 「たけのこ」ネットワークから報告

- 第2回 令和4年8月26日(金)
- 1) 今年度の庁内実習の進捗状況
 - 2) 庁内実習報告会&講演会
 - 3) 乙訓圏域障害者支援事業所連絡協議会との連携について
 - 4) 「たけのこ」ネットワークから報告
- 第3回 令和4年10月31日(月)
- 1) 今年度庁内実習状況
 - 2) 庁内実習報告会&講演会
 - 3) 乙障協とたけのこの連携
 - 4) 「たけのこ」ネットワークから報告
 - 5) 今後の部会について
- 第4回 令和5年1月17日(火)
- 1) 庁内実習報告会&講演会
 - 2) 庁内実習
 - 3) 今後の部会の進め方
- 第5回 令和5年2月21日(火)
- 1) 庁内実習(評価表・まとめ)
 - 2) 今年度の活動報告(案)

庁内実習報告会と講演

令和4年12月8日(木) <ハイブリッド開催>

4 今年度の活動

(1) 庁内実習の実施について

庁内実習が始まって6年目になります。令和4年度は受け入れ予定人数より多くの応募があり、全体会委員である長岡京市商工会が受け入れていただき、希望者全員が実施できました。冬季の実習は中止となる場合があったことから実習時期を見直し、12月までに実習が終わるよう調整しました。

また、この5年間で庁内実習が就労に向けて果たしてきた役割を振り返りました。

<資料1>

(2) 就労継続支援事業所における課題解決に向けて

就労継続支援事業所の工賃向上のために自主製品の販売先確保、仕事の確保など一事業所だけで解決が難しい課題について協議した結果、「たけのこ」の会議へ「乙障協」の担当者が今後も継続的に出席していただけることになりました。

(3) 庁内実習報告会と講演について

庁内実習がこの5年間で一般就労に向けて果たしてきた成果の報告と、福祉就労から一般就労に至るまでを当事者、支援者、企業から話を聞く機会を作りました。多くの人に聞いていただくためにハイブリッド開催とし、後日限定配信しました。

働く人の実際を知る機会があることで、「なぜ働くか」「どんな人生を送っていきたいか」を少しでも具体的にイメージすることができる機会となり、もっとこのような場が必要であるという意見がありました。

就労継続支援事業所から就労を希望する利用者が少ない原因の一つとして、一般就労に向けた制度などの情報が、就労を希望する利用者や就労継続支援事業所の支援員、相談支援専門員などへ十分に周知されていない現状があるとの認識を持ちました。

<資料2>

(4) 障害者の雇用促進について

障害者雇用促進は、しょうがい者就業・生活支援センター「アイリス」を事務局とする「たけのこ」が、その役割を担っています。今年度も「たけのこ」主催の乙訓ミニ企業交流会の後援を部会として取り組みました。

令和3年度同様、定員を超える申し込みがあり、一般就労への関心の高さを伺うことができました。

5 次年度の課題と方針

庁内実習については、一般就労に向けたステップの一つとして継続します。実習日数や内容の拡大、実習希望者の増加に向けた対応の検討が必要です。

また障害者総合支援法の見直しにより、「企業と福祉の併用」や、新設が予定されている「就労選択支援」、「短時間勤務の特例算定」など障がいの就労の形も様々に変化していきます。一般就労を促進していくために、当事者やその家族、相談支援専門員や就労系の事業所職員等に対して、一般就労を希望する利用者を支援する事業所や機関、利用できる制度などの情報をまとめ、その周知の方法について協議する必要があります。

「長岡京市中小企業振興基本条例」が制定されたことから、障害者雇用の推進に繋げる取組の検討も必要です。

<添付資料>

資料1 庁内実習実施状況およびその後 平成28年度～令和3年度

資料2 令和4年度「福祉就労から企業就労へ」庁内実習報告会と講演「縁と
思いの中で働く」報告

令和4年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会

相談支援プロジェクト 活動報告（案）

1 設置の目的、役割等

障がい福祉サービスの適正な供給を目指していくためには、相談支援体制の充実と相談支援事業所間連携の一層の強化が必要です。

このため、サービス利用者や相談支援事業所、行政などの関係者それぞれの視点での個別事例の検討を通して、必要な支援の種類と量を明らかにし、その提供体制についての協議を行っていくことを目的としています。

2 昨年度までの経過

平成23年度に「相談支援部会」を立ち上げ、円滑な支援に繋がるための様々な事業を実施し、平成29年度には各市町の「障がい福祉計画」の内容について具体的な数値をもとに分析し、その結果を「障がい福祉計画への提案」として市町へ提出しました。

平成30年度からは、地域の課題を明らかにするための事例検討を行うことを目的に「相談支援プロジェクト」に改組し、相談支援のネットワークの強化を図ってきました。

令和元年度は事例の中から特に課題が大きかった入浴に関することについて、障がい者施設の入浴設備の利用状況等の調査や改善点を協議しました。

令和2年度は相談支援専門員のスキルアップについて具体的な協議を行い、研修が必要であると確認しました。入浴の課題に関してはワーキングチームを設置し、「入浴の機会をどのように確保するか」をテーマに協議しました。

令和3年度は、相談支援専門員スキルアップのための研修を開催しました。また、入浴の課題に関してのワーキングチームでは、介護保険事業所へ入浴に関するアンケートを行い、「圏域内の障がい者入浴サービス委託事業を検討したい、又は、情報提供を求める」と回答した4事業所に対し、2市1町から行政が委託している障がい者入浴サービスについて情報提供を行い、次年度からは運営委員会の中にワーキングチームを移すことになりました。

3 今年度の取組状況

第1回 令和4年6月24日（金）

- 1) 代表・副代表の選出
- 2) 昨年度の活動の振り返りと本年度の進め方

3) 乙訓障がい者基幹相談支援センター（以下、基幹相談支援センターと表記）について

第2回 令和4年8月19日（金）

- 1) 圏域の相談支援体制の充実に向けて
- 2) 基幹相談支援センターの役割についての協議
- 3) 基幹相談支援センター今年度研修

第3回 令和4年10月28日（金）

- 1) 圏域の相談支援体制に充実に向けて必要な機能
- 2) 基幹相談支援センター今年度研修

第4回 令和4年12月23日（金）

- 1) 圏域の相談支援体制に充実に向けて必要な機能
- 2) 基幹相談支援センター今年度研修

第5回 令和5年2月24日（金）

- 1) 圏域で望む基幹相談支援センターの役割
- 2) 基幹相談支援センター今年度研修
- 3) 今年度のまとめと来年度の課題

4 今年度の活動

(1) 概要と取組

今年度は、圏域の相談支援体制の充実を図るために、その体制構築の中核的役割が求められている基幹相談支援センターの機能充実について協議しました。

そもそも、乙訓の相談支援事業は、平成12年に「精神障害者地域生活支援事業」と「市町村障害者生活支援事業」、平成14年に「障がい児（者）地域療育等支援事業」のもとに始まりました。平成24年4月の改正障害者自立支援法施行により、障害福祉サービスを利用する人へのサービス等利用計画案の作成が開始されて、圏域内に相談支援事業所が増え、平成25年に2市1町の行政により、「乙訓障がい者基幹相談支援センター」が乙訓福祉施設事務組合に設置されました。

今年度当初は、まず、「乙訓障がい者基幹相談支援センター」の令和4年度人員体制や、令和3年度における対応事例数と専門相談事例等の報告を聞きました。

次に、基幹相談支援センターによる相談支援事業所への聞き取りや、家族会による家族向けアンケートから、基幹相談支援センターが圏域でどのような役割を担っているのか十分理解されていないことがわかりました。また、プロジェクト委員の間で、基幹相談支援センターの役割に関わる「スーパーバイズ」

や「困難事例」などの用語の捉え方に差異が認められました。

一方、国が定める相談支援事業の体系は複雑で、様々な相談支援事業の種類と名称が存在しており、圏域行政から相談支援事業所への委託も2市1町それぞれに違うという事情があり、これらの枠組をたやすくイメージできることが必要でした。

このような背景のもとで、「一般相談支援事業」「特定相談支援事業」「障がい児相談支援事業」の概要と「委託相談支援事業」の業務内容について、法的根拠を基に確認するとともに、圏域の相談支援体制に関わる基本的な情報を正確に共有するために、2市1町の相談支援体制のフロー図の確認や、圏域に所在する相談支援事業所を網羅し各事業所の相談支援事業種別や行政からの委託状況を一覧表示した図表の作成を行いました。

＜資料1＞

作成した図表は、すみやかに乙訓圏域障がい者相談支援事業所連絡会(以下、相談支援事業所連絡会と表記)でも共有しました。

また、有効に活用できたとまでは言えませんが、厚生労働省の平成25年度公募による基幹相談支援センターの調査事業で用いられた「相談支援体制セルフチェックシート」を基に、基幹相談支援センターと関係機関の役割を各委員でチェックし、不足している機能について意見交換しました。

今年度の基幹相談支援センター主催の2回目の研修は、複数の相談支援事業所から希望が出されていた精神障がい者の支援について取り上げることとし、『精神保健及び精神障害者福祉に関する法律や制度』と精神疾患の方への日々の対応や支援についての交流会』と題した研修会が実施されました。

(2) まとめ

基幹相談支援センターが行政によって、圏域にすでに設置されている状況下で、その役割と機能を協議するのは制約もありましたが、最終的に、基幹相談支援センターが担うべき業務や担ってほしい役割を検討することができました。その結果、「圏域の課題を明らかにする」「相談支援専門員がスーパーバイズを受けられる仕組みを作る」「複合的課題を抱えて複数の支援が必要な時、中間に立ち関係者を招集する」「支援や制度の狭間に落ち込んでいるケースへの対応」「情報提供」「相談支援事業所に繋がるまでのケースのフォロー」「困難事例を相談支援事業所へ移管した後のフォロー」「当事者・家族会活動への支援」「圏域の相談支援専門員研修体系の整備」などの意見が出されました。

また、基幹相談支援センターの役割のチェック機能については、行政と乙訓福祉施設事務組合で確認していることがわかりましたが、その場だけにとどめ

ず、協議会へのフィードバックを求める意見もありました。さらに、基幹相談支援センターの機能充実のための体制については、今回の意見を2市1町に提言し、乙訓福祉施設事務組合と共に検討することを求めます。

「困難事例」「スーパーバイズ」の用語に関することとしては、相談支援専門員が困難と判断したケースについてはいつでも基幹相談支援センターに連絡できることや基幹相談支援センターはケースの対応をするのではなく、もつれたケースを解きほぐし解決に向けた課題の整理をするということが確認されました。

その他、「相談支援事業所連絡会と当プロジェクトとの関係や連携の在り方を整理する必要がある。」「これまで、相談支援事業所側が基幹をどう育てていくかという視点が欠けていた。」「今年度、基幹の体制がプラス1となり、基幹が自立支援協議会の全体を把握できたことはよかった。」という意見もあり、今回プロジェクトで話し合えたことは一つの成果でした。

5 次年度の課題と方針

次年度は、まず、今年度出た意見のうち、基幹相談支援センターが進めていくこととプロジェクトで取り組むことの振り分けを確認することが必要です。

また、プロジェクト発足から5年経過し、その間生活様式も大きく変化していることから、現状のニーズを再確認し、解決に向けて取り組む必要があります。

<添付資料>

資料1 相談支援体制図と相談支援体制表

令和4年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会

喀痰吸引等研修プロジェクト 活動報告（案）

1 設置の目的、役割等

喀痰吸引等研修プロジェクトは、平成24年4月「介護職員等による喀痰吸引等の実施のための制度」によって、乙訓圏域での「介護職員等による喀痰吸引等研修<第3号研修>」を実施することを目的としています。

このプロジェクトは、平成24年度に乙訓圏域障がい者自立支援協議会「医療的ケア」委員会のプロジェクトとして設置しています。

喀痰吸引等を必要とされる人の地域生活を支えるため、担い手となる人材を確保・育成していくことを目的、役割としています。

2 昨年度までの経過

平成24年度の「喀痰吸引等制度」制度化から「第3号研修」が乙訓圏域での研修を継続可能とするため「医療的ケア」委員会で協議を行い、進めてきました。

実施は京都府の指定登録研修機関となる社会福祉法人乙訓福祉会に乙訓圏域障がい者自立支援協議会が要請し、登録研修機関をバックアップする態勢で研修を実施しています。

平成24年9月以降の「第3号研修」について以下のとおり実施しました。

・平成24年度～令和4年度 受講者数合計：316名

乙訓圏域事業所所属：155名 圏域外事業所所属：161名

3 今年度の取組状況

第1回 令和4年 6月16日（木）

1) 令和2年度 喀痰吸引等研修実施に向けての確認

第2回 令和4年 7月28日（木）

1) 研修開催日時、研修体制及び講師依頼者の確認と周知方法の確認

2) 役割と進行の確認

3) 詳細は関係者へメールで連絡調整

第3回 令和4年 10月13日（木）

1) 研修受講者数の確定、役割と進行の調整

2) 研修の最終確認

3) 詳細は関係者へメールで連絡調整

第4回 令和4年12月15日(木)

1) 研修報告とまとめ

4 今年度の活動

(1) 令和4年度「第3号研修」の実施

① 研修実施日程

令和4年11月19日(土) 9:30~17:00 (講義) (筆記試験)

11月20日(日) 10:00~12:00 (シミュレータ演習)

② 研修実施場所

両日とも、社会福祉法人 乙訓福社会 乙訓の里で実施

③ 研修受講者数

19名(乙訓圏域事業所:10名 その他京都市等事業所:9名)

《今年度の受講者動向》

基本研修受講のみ … 3名 実地研修受講者数 … 16名

〈資料1〉

※筆記再試験の実施について

筆記試験で2名の方が再試験となりましたが、2名の方とも合格されました。

実施日 令和4年11月20日(日)

実施場所 乙訓福社会 乙訓の里相談室

対象者 2名

(2) まとめ

本年度も昨年同様、コロナウイルス感染拡大防止のため「重度障がい児・者等の地域生活等に関する講義」はWEB講義とし、レポートの提出を義務付けました。

医療的ケアを福祉職が実践するために、身に付けておかなければならない専門性について話していただきました。講義については亀井あや子看護師に「喀痰吸引の講義」、玉川能子看護師に「健康状態の把握・経管栄養の講義」をお願いしました。

お二人とも看護職としての豊富な経験をもとに、吸引器等の喀痰吸引に使用する器具を使い、シミュレータ演習の予備知識やポイントを解りやすく丁寧に講義していただきました。また、看護現場での実際の事例を紹介しつつ、医療的ケアのポイントや介護職と医療職との連携について講義していただきました。

20日のシミュレータ演習は「乙訓の里」で受講者19名を1階と2階に分けて実施しました。

5 次年度の課題と方針

平成 24 年度からプロジェクトで協議しこの研修を開催していますが、常に医療的ケアを必要とする人の支援が充実しているか、状況を確認しながら進めてきました。

今後も国が示す障がい者の重度化・高齢化、医療的ケア児への支援等の制度改正に伴う新たなサービスに対応するため、支援者の育成が必要です。

医療的ケア委員会と課題解決に向け連携を図りながら、次年度も乙訓圏域での「第 3 号研修」を引き続き実施します。

また、一般の人や関係機関（保育所等）に「喀痰吸引等」の医療的ケアへの関心を高めてもらうため、見学をご案内したところ 9 名の方が来ていただきました。

令和 5 年度についても秋頃に実施することで準備を進めていきます。

今後も引き続き「喀痰吸引研修」の必要性を周知する取組を継続していく必要があります。

<添付資料>

資料 1 「2022 年度介護職員等による喀痰吸引等研修（第 3 号研修）
実施要項」

令和4年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会

精神障がい者地域生活支援プロジェクト 活動報告(案)

1 設置の目的、役割等

精神障がい者の地域移行と地域生活に関する課題を協議するため、平成25年度に協議会のプロジェクトとして発足し、精神障がい者のための福祉や医療制度の学習、関係機関との連携を目的とした取組などを進めています。

2 昨年度までの経過

平成25年度は「地域移行・地域定着支援事業のお知らせ」の作成と事業説明会を実施、平成26年度はグループホームの学習、平成27年度は困難ケース検討、圏域事業所の一覧表を作成しました。

平成28・29年度は、障がい者の住まい確保に関してアパート等へ入居する場合の問題点等に関する聴き取り調査を行い、報告書を作成しました。

平成30年度は、この調査の報告と障がい者の入居に関する実際についての講演会を実施しました。また、精神相談の充実を図るために「フローチャート」を作成し、相談支援事業所に配付しました。

令和元年度は「フローチャート」の普及のため、活用に関するアンケート調査を行いました。

令和2年度は、継続的で有効な支援について検討するため、事例を通してどのような課題があるかを協議しました。その結果、居場所の必要性が確認され、令和3年度はニーズを把握するためにアンケート調査を実施しました。また、「乙訓もも」開催のひきこもり講演会の運営の協力を、平成30年度から継続して行っています。

3 今年度の取組状況

第1回 令和4年6月17日(金)

- 1) 令和3年度プロジェクト活動の振り返り
- 2) 今年度の取組

第2回 令和4年9月8日(木)

- 1) 地域内居場所ニーズ分析の報告
- 2) 分析結果から乙訓の居場所について協議

第3回 令和4年12月6日(火)

居場所づくりに関する学習会「山城北圏域でのとりくみ」

第4回 令和5年1月26日(木)

- 1) 学習会を聞いて意見交換
- 2) 今年度のまとめと次年度の取組

4 今年度の活動

(1) 活動の概要

昨年度ニーズを抽出するために実施したアンケート調査を集計分析し、意見交換をしました。

自宅から第一歩を踏み出して気軽に集える居場所づくりを実施されている山城北圏域の取組を、宇治地区民生児童委員協議会から話を聞く機会を設けました。

<資料1>

また、乙訓ももが主催するひきこもり支援のネットワーク会議「乙訓絆サークル」が設立され、第1回乙訓絆サークルにプロジェクトの委員も参加しました。乙訓絆サークルは、ひきこもり支援や行政をはじめ、障がい福祉、子育て支援、高齢者支援、就労や教育など幅広い分野から44名の参加がありました。乙訓ももが実施したアンケートの結果から、直接顔を見て共有できた、違う視点から意見交換ができたなど参加してよかったという意見が8割を占めており、今後の継続的な開催を期待されていることが伺えました。

(2) まとめ

令和3年度実施したアンケートから、外からの目を意識するためか福祉的な居場所とはっきりわかる場所は望んでいない、プログラムはない方がいいという意見が多く見られました。さらに、居場所がすでにある方とない方どちらもほぼ同じ意見であることもわかりました。また、「乙訓管内地域内居場所一覧」を再度確認し、意見交換をした結果、乙訓圏域に合う居場所を立ち上げていくことになりました。

5 次年度の課題と方針

次年度は乙訓圏域に必要な居場所のかたちを明確にし、立ち上げに繋がれるように協議を進めていきます。

居場所を立ち上げていくために、既存の資源の活用も含めて人材や場所の確

保をどのように進めていくかを整理し、居場所の確保に尽力していきます。

不登校とひきこもり状態の方の支援をみんなで考える「乙訓絆サークル」とは、今後も連携をしていきます。

<添付資料>

資料1 「ひきこもりの方の居場所づくりについて
～ 山城北圏域での取り組み ～」学習会 報告

令和4年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会

児童発達支援プロジェクト 活動報告（案）

1 設置の目的、役割等

近年、児童発達支援に関するニーズの高まりに対応し、児童発達支援や放課後等デイサービスの事業所が増加し、それぞれの事業所が独自の支援を行っています。

様々な状況の児童や複数の事業所を利用する児童等もいるため、利用者と支援者をより良く結びつけるには関係機関の連携が必要であり、その支援及び療育についてはガイドラインを基準として不断な創意工夫を図りながらも一定の質が求められています。

また、児童を取り巻く環境と制度及びサービスの多様化から、改めて「児童と保護者にとって必要な療育とは何か？」を圏域で協議し、共有する必要性が生じています。

以上のことから令和3年度に「児童発達支援プロジェクト」が発足し、乙訓圏域で求められる療育と児童を取りまく支援について協議を進めています。

2 昨年度までの経過

令和3年度は、圏域内の児童発達支援事業所並びに放課後等デイサービス事業所を対象に「児童発達支援・放課後等デイサービス事業所の現状調査（フォーマット）」による情報集約を行いました。また、圏域の療育について歴史的経緯を含めて学習しました。

3 今年度の取組状況

第1回 令和4年6月30日(木)

- 1) 代表・副代表の選出
- 2) 前年度の活動の振り返りと今年度の進め方
- 3) 事業所の基本情報
(共有範囲、更新方法、保管、活用システム、窓口)

第2回 令和4年9月2日(金)

- 1) 2次調査(聞き取り調査)
- 2) 2次調査の聞き取りチーム分担

第3回 令和4年10月31日(月)

- 1) 2次調査の進捗状況

2) 現状調査（フォーマット）の運用方法

共有範囲、更新方法、保管、活用システム、主務担当の確定

第4回 令和5年1月16日（月）

1) 2次調査の結果

2) ヒアリングを踏まえての療育の内容

第5回 令和5年2月20日（月）

1) 今年度の活動報告（案）

2) 2次調査

第6回 令和5年3月6日（月）

1) 2次調査の結果から 現状把握

2) その他

4 今年度の活動

(1) 概要と取組

2年目にあたる令和4年度は「令和4年度 児童発達支援プロジェクト 予定図」に則って、『フォーマットのブラッシュアップと聞き取り調査』『フォーマットの運用方法の決定』『圏域における関係機関での療育の目的の共有』の3点について、取組を行いました。

<資料1>

チームに分かれて聞き取り調査を実施する際、1年目に行った「児童発達支援・放課後等デイサービス事業所の現状調査（フォーマット）」を基にして、付け加える情報について協議し、フォーマットの項目を更新し、聞き取るポイントを確認して2次調査を実施しました。

<資料2>

(2) まとめ

フォーマットのブラッシュアップと2次調査については、プロジェクトメンバーを「児童発達支援チーム」と「放課後等デイサービスチーム」にわけ、「ヒアリングマニュアル」を作成および共有し、児童発達支援12か所、放課後等デイサービス31か所の2次調査を実施しました。円滑な調査実施のために乙訓圏域児童通所支援事業所連絡会にプロジェクトメンバーが出席し、本調査の趣旨ならびに2次調査の説明を行い、乙訓圏域児童通所支援事業所連絡会と緊密な連携を図りながら調査を進めました。

<資料3>

調査結果のフォーマットについては、今後、乙訓保健所、基幹相談支援センター、2市1町の障がい・健康推進所轄課の8か所へ紙ベースで送付し、活用していただくこととし、更新は、年1回12月末とすることになりました。新規事業所の情報については、指定を行う乙訓保健所が乙訓圏域児童通所支援事業所連絡会を案内し、乙訓圏域児童通所支援事業所連絡会から1次調査票を配付し、プロジェクトで2次調査を実施していきます。また、圏域に児童発達支援センターができるまでは、自立支援協議会の事務局がデータ保管することになりました。

圏域における関係機関での療育の目的の共有については、2次調査を実施したフォーマットを基に現状把握し、プロジェクトの委員が実際に訪問して聞き取り調査を実施した際に感じた疑問や感想を共有しました。

5 次年度の課題と方針

次年度は、乙訓圏域児童通所支援事業所連絡会ならびに乙訓保健所と連携しながら、円滑にフォーマットを更新していきます。同様に新規事業所に対しても対応していきます。

また、将来、児童発達支援センターを受託した法人と協議しながら調査の事務局機能およびプロジェクトの主務を円滑に移行するため、関係各所と継続して連携していきます。

さらに、今回の聞き取り調査の結果と聞き取り調査に回った委員から出された意見を基に、圏域の状況を共有し、厚労省から示されるガイドラインの変更に応じて、子どもたちやその家族にとって必要な療育について協議していく必要があります。今年度聞き取り後の感想交流の中で出された、圏域外のサービスを利用している理由を明確にし、圏域にないサービスへのニーズについて、乙訓圏域児童通所支援事業所連絡会と共有していくことも必要です。また、子どもたちの放課後の生活について協議を深める場合、学童や子育ての所轄課や教育等との連携についても考えていくこととなります。

<添付資料>

資料1 プロジェクト年間予定共有イメージ表

資料2 児童発達支援・放課後等デイサービス事業所の2次調査票(フォーマット)

資料3 ヒアリングマニュアル

令和5年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会 委員

分野・団体		団体・機関名	所属名	役職	委員	よみがな
相談支援事業所		乙訓福祉施設事務組合	乙訓障がい者基幹相談支援センター	課長	山田洋平	やまだようへい
		(福)長岡京市社会福祉協議会	長岡京市障がい者地域生活支援センター「キャンパス」	グループ長	中谷大介	なかにだいでいすけ
		(福)向陵会	乙訓ひまわり園地域連携室	室長	井上 大	いのうえまさる
		(財)長岡記念財団	相談支援事業所・地域活動支援センターアンサンブル	所長	石田早苗	いしださなえ
		(福)向日市社会福祉協議会	障がい者地域生活支援センター	事務局次長兼センター長	落合 鋼	おちあいこう
		NPO法人こらぼねっと京都	こらぼねっと京都自立支援センター	所長	伊藤美恵	いどうみえ
		(財)長岡記念財団	しょうがい者就業・生活支援センターアイリス	所長	青戸享子	あおときようこ
		乙訓福祉施設事務組合	乙訓ポニーの学校	主任	大塚まり子	おおつかまりこ
		(福)大山崎町社会福祉協議会		事務局長	今西泰彦	いまにしやすひこ
		乙訓福祉施設事務組合	乙訓若竹苑	主任	小柳裕一	こやなぎひろかず
障がい福祉サービス事業所関係	乙訓障害者支援事業所連絡協議会	(福)向陵会	法人事務局人事課	課長	森井詳太	もりいしやうた
	乙訓圏域児童通所支援事業所連絡会	NPO法人 長岡京障がい福祉療育会	放課後等デイサービスたけのこ	理事長	山崎裕市	やまざきゆういち
	居宅支援事業者	(福)向日市社会福祉協議会	ホームヘルプセンター	センター長	中澤明美	なかざわあけみ
		(福)長岡京市社会福祉協議会	地域福祉センターきりしま苑 サービス支援グループ	主任	吉岡絵梨香	よしおかえりか
		(福)大山崎町社会福祉協議会		事務局長	今西泰彦	いまにしやすひこ
	公設支援事業者	乙訓福祉施設事務組合	乙訓若竹苑	施設長	上田佳子	うえだよしこ
	施設入所支援事業者	(福)乙の国福祉会	障害者支援施設晨光苑	施設長	梅垣 剛	うめがきつよし
第3号登録研修機関	(福)乙訓福祉会	乙訓の里	生活支援員	三宅州人	みやけひろんど	
医療関係団体	乙訓訪問看護ステーション連絡会	(社)乙訓医師会		障がい者担当理事	池田広記	いけだひろき
		京都府乙訓歯科医師会			大橋瑞己	おおはしみずき
		京都府歯科衛生士会	乙訓支部		岩崎香代	いわさきかよ
		(財)療道協会 西山病院	医療福祉相談室	精神保健福祉士	山本珠由	やまもとみゆ
		(財)長岡記念財団 長岡病院	医療社会事業部		今堀幸弘	いまほりゆきひろ
		(福)恩賜財団京都済生会病院	福祉相談室		島田 浩	しまだひろし
	訪問看護ステーション協議会G地区	訪問看護ステーションやすらぎの家		丹上幸子	たんじょうさちこ	
教育・雇用・企業		京都府立向日が丘支援学校		校長	平岡克也	ひらおかかつや
		京都府乙訓教育局	学校教育担当	指導主事	中西真理子	なかにしまりこ
		京都七条公共職業安定所	京都障害者職業相談室	室長	南 富美代	みなみふみよ
		乙訓地域商工会広域連携協議会	乙訓地域商工会広域連携協議会事務局	長岡京市商工会総括主事	小林康夫	こばやしやすお
		(社)乙訓青年会議所	人材育成委員会	副委員長	山田英孝	やまだひでたか
障がい者関係団体	当事者団体	京都府身体障害者団体連合会乙訓ブロック	長岡京市身体障がい者団体連合会	会長	三好俊昭	みやよししあき
		(社)京家連 乙訓やよい会		副会長	西村くみ子	にしむらくみこ
		乙訓の障害者福祉を進める連絡会	乙訓障害児父母の会		河合祥子	かわいしやうこ
行政		京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	福祉課	課長	辻 知也	つじともや
		乙訓福祉施設事務組合		事務局長	川本 進	かわもとすすむ
		向日市	市民サービス部	部長	山田栄次	やまださかじ
		向日市	市民サービス部障がい者支援課	課長	岡本淳司	おかもとじゅんじ
		長岡京市	健康福祉部	部長	能勢 泰人	のせやすひと
		長岡京市	健康福祉部障がい福祉課	課長	厚地基子	あつちもとこ
		大山崎町	健康福祉部	部長	蛭原 淳	へびはらじゅん
		大山崎町	健康福祉部福祉課	課長	向井宏樹	むかいひろき
運営委員	相談支援事業所	乙訓福祉施設事務組合	乙訓障がい者基幹相談支援センター	課長	山田洋平	やまだようへい
		(福)長岡京市社会福祉協議会	長岡京市障がい者地域生活支援センター「キャンパス」	グループ長	中谷大介	なかにだいでいすけ
		(福)向陵会	乙訓ひまわり園地域連携室	室長	井上 大	いのうえまさる
		(財)長岡記念財団	相談支援事業所・地域活動支援センターアンサンブル	所長	石田早苗	いしださなえ
		(福)向日市社会福祉協議会	向日市社協障がい者地域生活支援センター	事務局次長兼センター長	落合 鋼	おちあいこう
		(福)向日市社会福祉協議会	障がい者地域生活支援センター	副センター長	吉川昭子	よしかわあきこ
		NPO法人こらぼねっと京都	こらぼねっと京都自立支援センター	所長	伊藤美恵	いどうみえ
		(財)長岡記念財団	しょうがい者就業・生活支援センター アイリス	所長	青戸享子	あおときようこ
		乙訓福祉施設事務組合	乙訓ポニーの学校	主任	大塚まり子	おおつかまりこ
		(福)大山崎町社会福祉協議会		事務局長	今西泰彦	いまにしやすひこ
	乙訓福祉施設事務組合	乙訓若竹苑	主任	小柳裕一	こやなぎひろかず	
	行政	京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	福祉課	課長	辻 知也	つじともや
		京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	福祉課	課長補佐兼係長	西條 毅	さいじょうたけし
		乙訓福祉施設事務組合	総務課	主任	齊藤浩二	さいとうこうじ
		向日市	市民サービス部障がい者支援課	係長	宮川圭美	みやがわたまみ
向日市		市民サービス部障がい者支援課	担当係長	山田直人	やまだなおと	
長岡京市	健康福祉部障がい福祉課	係長	山中あゆみ	やまなかあゆみ		
大山崎町	健康福祉部福祉課	課長補佐	川田浩二	かわたこうじ		